

「上町台地 子どもと遊びいま・むかし」の展示構成

子どもたちの遊びと遊び場の変遷を通して、まちと暮らしの移り変わりと、子どもたちを育み続ける上町台地の姿を見つめる展示です。大阪の郷土玩具の故郷として、また懐かしい遊び文化を未来につなぐ取り組みが息づくまちとして、上町台地の魅力をご紹介するコーナー。さらに、上町台地で子ども時代を過ごした祖母世代(昭和前期頃)、父母世代(昭和後期頃)、そして平成の子どもたちのお気に入りの遊びと遊び場について、住民の方々への聞き取り結果をもとに、時代背景や生活環境の変遷も含めて、コラムとマップでご紹介するコーナー。二つの展示構成で、上町台地のいま・むかしを表現しています。この冊子では、その一部をご紹介します。

謝辞

今回の企画は、フィールド調査にご協力くださったみなさま、貴重な資料や情報をご提供くださったみなさま等のご協力によって実現しているものです。心からお礼申し上げます。

協力(取材・資料提供等): 青山憲男さん・岡田孝輔さん・白石さん・服部多喜男さん・松本和子さん・森茂樹さん・山田浩史さん・吉田光子さんほか「遊びと遊び場聞き取り調査」にご協力いただきました上町台地の住民のみなさま、上町台地からまちを考える会、葛中屋「夕陽丘ストリート」、大阪市、大阪市天王寺動物園、大阪府立中之島図書館、太田順一さん、からほり倶楽部、からほりまちアート実行委員会、杉浦貞さん、玉造稻荷神社、西代宮山クラブ、(有)富士原文佛堂、そのほかのみなさま(順不同)

U-CoRo独案内 (ゆーころ・ひとりあんない) vol.02

NEXT21/U-CoRo ウィンドウ・エキジビション 02

「上町台地 子どもと遊びいま・むかし」(2007.5.14~8.31)

大阪市天王寺区清水谷町6-16 NEXT21 1階北 U-CoRoウィンドウ

発行日 2007年5月14日

発行 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 (CEL)

大阪市中央区平野町4丁目1番2号

企画 U-CoRoプロジェクト・ワーキング

取材 橋本謙、早川厚志、弘本由香里 デザイン 北浦千尋

印刷 (株)国際印刷出版研究所

この冊子、企画内容に関するお問合せ先 TEL:06-6205-3518(担当:弘本)

※NEXT21の3階以上は在戸フロアとなっておりますので、立ち入りはご遠慮ください。

表紙:天王寺区下寺町の路地にて(平成19年4月撮影)

独案内(ひとりあんない) = まちや物事に不案内な人を助ける携帯便利な冊子のこと



この冊子は環境に優しい再生紙製竹パルプ60%及び無塩漂白パルプ40%を使用しています

ゆーころ・ひとりあんない

U-CoRo独案内

vol.02

NEXT21/U-CoRo ウィンドウ・エキジビション 02

上町台地 子どもと遊びいま・むかし

2007.5.14 Mon — 8.31 Fri

ごあいさつ

大阪ガス実験集合住宅NEXT21では、1993年10月の竣工以来、近未来の住まいと暮らしを探求し、数々の実験を展開しています。今春スタートした第3フェーズ実験では、エネルギー・環境に関わる実験に加え、新たにまちと暮らしをつなぐ小さな試みを始めたところです。1階に設けた「U-CoRo(ゆーころ)」の窓をインターフェイスとして、上町台地の文化の再発見や、多世代・多文化共生、減災文化の創造、自然・環境の再生などをテーマにウィンドウ・エキジビションやワークショップを開催してまいります。

ウィンドウ・エキジビション第1弾「上町台地まつり絵巻」に続く、第2弾が「上町台地 子どもと遊び いま・むかし」です。子どもたちの遊びと遊び場の変遷を、まちの人たちの語りや懐かしい写真やおもちゃとともに振り返ってみました。子どもたちを育ててきた、上町台地の自然や生活文化、まちの資源を見つめなおし、次世代に引き継いでいく、ささやかなきっかけになればと願っています。ご家族でお楽しみいただけると幸いです。

大阪ガスエネルギー・文化研究所(CEL)
U-CoRoプロジェクト・ワーキング

※U-CoRo(ゆーころ)とは、NEXT21の1階「上町台地コミュニケーション・ルーム」の愛称です。
この窓をインターフェイスに、上町台地の時空につながり、出会いを紡ぎ、暮らしを育む取り組みを少しずつ重ねていくことができると願っています。

上町台地の子どもと遊びを調べる参考図書など

今回の企画のために使用した参考文献の一部と、上町台地の子育て関連情報をご紹介します。

●書籍

- 【大阪・上町台地関連】
 - 【天王寺区史】川端直正編(天王寺区創立三十周年記念事業委員会 1955)
 - 【浪花風俗図説】長谷川貞徳 画(杉本書店 1968)
 - 【大阪の風俗】毎日放送文化双書8 宮本又次(1973)
 - 【大阪ことば事典】牧村史陽編(講談社 1979)
 - 【浪花おもちゃ風土記】奥村寛純(村田書店 1987)
 - 【ぼくは豆玩】宮本順三(いんてる社 1991)
 - 【別れたわが母校—なにわの学校物語】赤澤康雄(拓殖書房 1995)
 - 【天王寺—天王寺区創設80周年記念】天王寺区創設80周年記念事業実行委員会(2005)
 - 【肥田せんせいのなにわ学】肥田昭三(INAX出版 2005)
- 【子どもと遊び全般】
 - 【昭和少年図鑑】峰岸達・ねじめ正一(白泉社 1999)
 - 【近代子ども史年表 昭和・平成編 1926-2000】下村秋史(河出書房新社 2004)

●小学校記念誌

- 【東平小学校閉校記念誌】東平小学校閉校記念事業委員会編(1991)
- 【桃瀬—閉校記念誌】大阪市立桃瀬小学校「桃瀬教育を明日につなぐ」記念事業委員会編(1991)
- 【桃谷—閉校記念誌】大阪市立桃谷小学校閉校記念事業委員会編(1991)
- 【福歌せよ、金蓋校史—閉校記念誌】大阪市立金蓋小学校閉校記念事業委員会編(1991)

●雑誌・その他

- 【新装本撰—夏休み・子ども考】創刊月号「心斎橋研究」同人(2006)
- 【大阪人 人形】(大阪都市協会 2003.5) 【大阪人 大阪おもちゃ箱】(同 2006.3)
- 【大阪人 親塾・昭和30年代】(同 2006.5) 【大阪人 駄菓子パラダイス】(同 2007.3)

●子育て関連情報

- 【中央区・心齋かにいきいきと楽しく遊び活動できるまち】大阪市中央区役所(2002)
- 【子育ていろいろ便利帳】大阪市立子育ていろいろ相談センター(2004)
- 【天王寺区子育て支援マップ・地域で育つ地域の子ども】天王寺区保健福祉センター(2005)
- 【天王寺・豊あいプラン(天王寺区地域福祉アクションプラン)】天王寺区地域福祉アクションプラン策定委員会(2006)
- 【ちゅつおう区ママくちコミ情報「ふたまん」】中央区ママロコミ情報局(2006)
- 【わいわいねっと新聞】中央区わいわいねっと事務局(月刊) など

生玉人形と郷土玩具

上町台地の周辺では、おがくずを使った練り人形や、商家の反古(ほご)紙などを利用した張子人形が古くから作られてきた。生玉人形は大阪の代表的な郷土玩具のひとつで、人形芝居の操り人形を模して作られている。戦前まで、生國魂神社付近で売られていたためにその名がある。当時は子どもの玩具としても人気があり、戦前のグリコのおまけ係として知られた故宮本順三さんも、子どもの頃にこの人形にふれて刺激を受けたという。

※展示の人形は、富田林市の佐々木義昂氏が再現したもので、三番叟と町人、町娘が復元されている。

生玉人形 (佐々木義昂さん作)

待ち遠しい紙芝居

お天気の良い金曜日の夕方、上汐や空堀界隈に昔懐かしい拍子木の音がこだまする。それに付いていけば上汐町公園と谷町六丁目(桃園)公園で紙芝居が今も楽しめる。全国でも唯一人となったプロの街頭紙芝居師・杉浦貞さん。お母さんたちに依頼され、四半世紀に渡ってホームグラウンドの北区から上町台地に毎週やってくる。子どもたちとも顔なじみ、真剣に叱る場面もあり、次週が待ち遠しくなる語りにも、お母さんたちも思わず一緒に見入ってしまう光景は、地域のつながりが子どもを育てるということを目に見える形で教えてくれているようだ。

※天気の良い毎週金曜日に、午後4時～4時半頃は上汐町公園、午後5時半～6時頃は谷町六丁目公園で紙芝居上演中

街頭紙芝居師・杉浦貞(すげうらただし)さん

地蔵盆の賑わい再び

上町台地の各地では今でもたくさんのお地蔵さんが大切に信仰され、あちこちで賑やかに地蔵盆が行われてきた。だから、昔から住んでいる人たちに、子どもの頃の楽しい思い出はと尋ねると、地蔵盆が真っ先に挙げられることが多い。この日は、近所のみんがが集まって一緒に遊ぶ特別の日。当て物やゲームをしながら、お下がりのお菓子も袋一杯もらえる。最近では一旦衰退しかかった地蔵盆を再興しようという動きも広がってきており、子どもからお年寄りまで、世代を超えて参加していて、地域挙げての盆踊りも併せて行うような地蔵盆もみられる。

町軍地蔵尊の地蔵盆(平成17年 越中屋「夕陽丘ストリート」提供)

路地遊びとおもちや

昔は上町台地にも路地がたくさんあった。たいていの路地には何人かの子どもがいて、大きい子から小さい子までが揃って遊んだ。路地が舗装されるようになっても地蔵さんの前は土のまま、そこでビー玉やメンコをよくしていたという。時々「外戦」と称して、よその路地に出て行って対決した。毎日毎日、どこの路地でもいろんな遊びが繰り返されていた。ペーゴマ、ヨーヨー、けん玉、コマ回し、時には、かくれんぼや缶蹴りもした。狭くても、路地には逃げ場所や隠れ場所がいっぱいあった。

空堀の路地で遊ぶ子どもたち(昭和20年代後半 からほりまちアート実行委員会提供)

